

**Q** 減りつつある日本庭園を守り継ぐには、  
どうしたらいいですか？

**A** 職人の勘や経験に基づく匠の技と、  
3Dを融合した新しい設計法で伝統を継承します。



**先端の3D技術を駆使して、  
日本伝統の庭園文化を後世に伝える。**

大学時代は建物の設計を学んでいましたが、生き物である苔や木を使い、刻々と表情を変える庭の奥深さに魅了され庭の研究へ。しかし日本庭園の作庭数は減少の一途で、後継者不足などもあり、存続の危機に直面しています。その背景には技の継承の難しさもあります。建築物のように形を留めない日本庭園においては、どれほど先人の真似をしてメンテナンスをしても、どうしても手を加えた時の時代観が投影されてしまいます。そこで、文献や言葉として残されていない技をありのままの形で留めて後世に伝えるために、CGやCADを使い3Dプリンタで立体化して残すという試みを始めました。また、新たな日本庭園を作庭する際にも3Dで表現したシミュレーションなどを活用しています。現代の先端技術を駆使することで、先人が残した文化を受け継いでいきたいです。

**ルーツを探り自分自身で確かめた感覚を大切に  
過去と未来をつなぐ。**

伝統文化を残し、守り、つなぐ。そのために重要なことはルーツを知り、自分の五感で確かめることだと思います。私自身、日本の庭園文化を掘り下げるにあたり、原点である中国大陸の奥地へ何度も足を運んで現地の方と寝食を共にしました。たとえ現場に何の跡形もなかったとしても、わずかな手がかりを見出したいと思って訪れています。また近年は庭に限らず、歴史的価値のある建造物の調査を行い、文化財として推薦する資料作成にも従事しています。インターネット上などであらゆる情報に触れられる時代ではありますが、先人が残した遺産はその場に行っても感じ取れる氣勢や神聖な風をまっています。これから学びを深めていく若いみなさんにも、ぜひ自分自身で確かめた感覚を大切に、自分にしかできない新しい価値の創出に挑戦してほしいです。



**三浦 彩子 先生**

Miura Ayako

大学時代に建築を学んでいたものの、卒業設計の時、余白を埋めるためにたまたま描いた庭の設計に引き込まれ、日本庭園の作庭技術に関する研究の道へ。研究が認められ、山梨県の寺院の枯山水庭園を設計。海外からの依頼も増えています。



**お気に入りアイテム**

**山奥の調査にも使うジープ**



庭園の背景にある禅思想と向き合うために、中国大陸の奥地にある禅の聖地を訪れることもしばしば。細い山道を走るジープでの旅はまさにサバイバル！ぬかるみにはまって車を押しながら脱出するなど、時には身の危険を感じることもあります。